

提出日： 2018年11月14日

派遣大会・事業名	FIBA U18 Women's Asian Championship
派遣期間	2018年10月26日～11月4日
報告者	有澤 重行
派遣先	インド（バンガロール）

## 大会概要（会場、参加国・チーム、競技方法など）

<p>【会場】 Sree Kanteerava Indoor Stadium(Capacity:4,000) Koramangala Indoor Stadium (Capacity:2,000)</p> <p>【参加国】 全 16 チーム</p> <p>【Division A】 Group A : オーストラリア、韓国、チャイニーズタイペイ、インドネシア      Group B : 中国、日本、ニュージーランド、マレーシア</p> <p>【Division B】 Group A : インド、シンガポール、 Guam、イラン      Group B : 香港、カザフスタン、シリア、サモア</p> <p>【競技方法】 Division A の全 8 チームを 2 グループに分け、各グループ 4 チームによるシングルラウンドロビン方式(1 回戦総当たり戦)を行い、それぞれ予選ラウンド 1 位から 4 位を決定する。その後、決勝トーナメントを行い、順位を決定する。 FIBA U19 ワールドカップ出場枠 Division A の上位 4 チームが、2019 年にタイ・バンコクで開催される「FIBA U19 女子バスケットボールワールドカップ 2019」の出場権を獲得する。Division B の優勝者は、Division A に昇格し、Division A の 8 位チームは Division B に降格する。</p>
--

## 大会結果（順位）

<p>【Division A】 最終順位 1 位:中国 2 位:日本 3 位:オーストラリア 4 位:韓国 5 位:ニュージーランド 6 位:チャイニーズタイペイ</p> <p>【Division B】 最終順位 1 位:インド 2 位 : カザフスタン 3 位 : 香港 4 位 : シンガポール</p>
---

## 派遣スケジュール

1 日目 (10/26) : 福岡空港→チャンギ空港・小田中氏と合流・チャンギ空港→バンガロール空港
2 日目 (10/27) : Fitness test・IOT @ Basketball Venue Opening and introduction, UF, FAKE, IOT @ Meeting room Opening Ceremony @ The Chancery Pavilion
3 日目 (10/28) : 大会初日
4 日目 (10/29) : 二日目
5 日目 (10/30) : 三日目
6 日目 (10/31) : Rest Day・dinner reception
7 日目 (11/1) : 四日目
8 日目 (11/2) : 五日目
9 日目 (11/3) : 最終日
10 日目 (11/4) : バンガロール空港→チャンギ空港 : 小田中氏と解散
11 日目 (11/5) : チャンギ空港→福岡空港

## 大会参加審判(R)、テクニカルデリゲイト(TD)/コミッショナー(C)、インストラクター(IR)

審判一覧：<http://www.fiba.basketball/asia/u18bwomen/2018/referees>

役割	氏名	国名	役割	氏名	国名
C	Mr.Moh'd H.Khan	I N D	C	Ms.Lei Si Man,Alice	M A C
C	Mr.Thong Kea Ka	M A S	C	Mr.Nanscwen Trevor	A U S
C	Mr.Bagheri Nader	I R I	C	Dr.Muongmee Pratoom	T H A
TD	MR.Heros Avanesian	I R I	IR	Mr.Naresh Aneja	I N D

## 担当試合

試合日	カード	会場	CC/U	パートナー	試合雑感
10/28	KAZ vs SYR (Division B)	Koramangala	CC	Hu (CHN) /Damian (AUS)	PC を使ってプレカンファレンスをしました。 確認事項は①OOB②C の存在③ブライマリ、クロスコール ④UF のクライテリア ⑤EOP・EOG の時計管理です。
10/29	GUMvs IND (Division B)	Sree Kanteerava	CC	Chan(MAS)/Wong(MAS)	チェックイン・チェックアウトがうまくいように、ゲーム中にアイコンタクトを継続。 <a href="#">試合映像</a>
10/30	HKGvsKAZ (Division B)	Koramangala	U1	Harja(INA)/Chan(MAS)	UF を取り上げた U 2 と検討した結果、どのクライテリアに当てはまらないことを確認してダウングレード。
11/1	HKG vs SGP (Division B)	Koramangala	U 2	Harja(INA)/Park(KOR)	24 オペレーターの操作ミスが多発。クルーでチェック。
11/2	NZ vs TPE (Division A)	Sree Kanteerava	U 2	Snehal (IND) /SHIN (KOR)	5・6 決定戦。機動力を生かしたいタイプに対して、体格に勝るニュージーランドがゴール下を圧倒。 <a href="#">試合映像</a>

## 審判会議・ミーティング内容（共有事項、強調された点など）

10/27

(体育館にて)

○フィットネステスト、シャトルラン 86 クリア。ホテルについての現地深夜 0100、翌朝 0700 にはホテル出発、0800 出走には少し緊張しました。不合格者が複数名いたと記憶します。

○IOT：FIBA の主要大会で実績のあるレフリー主導で進めます。途中ヘロス氏とアネージャ氏がコメントを挟みます。

①メカベリック：責任エリアの確認、ローテーションの確認

②チェックイン・チェックアウト：自身のエリアにボールが「チェックイン」と声を出し、手をあげる。

③T から L への動き：4 秒でセットアップポジションへ。切り返しの際に時計を見ること。ファウルを取り上げた際には声を使ってレポートすること。

(ホテル会議室にて)

④レフリーミーティング：自己紹介、プレカンファレンスを充実させること、交通手段、レフリーウェア、ドレスコード、ゲーム前のフォトセッション、国歌斉唱の確認。

⑤FAKE について：プロトコルの確認（=我々が持っている情報と相違なし、映像は FIBA が展開しているもの）  
シグナル→時計が止まる→選手にシグナル・ベンチにシグナル

⑥UF について（=我々が持っている情報と相違なし、映像は FIBA が展開しているもの）

## クライテリアの確認

C1: No legitimate attempt to play the ball within the spirit and intent of the rules

C2: Excessive or hard contact by a player in an effort to play the ball or players

C3: Use unnecessary contact by defensive player to stop the play of transition

C4: Contact by defensive player laterally or behind to stop the fast-break.

C5: Last 2min of 4<sup>th</sup> quarter and overtime with the ball at disposal of player, contact by defense player

その後、FIBA が展開している映像を見て、UF or NOT のディスカッション

⑦IOT について（＝我々が持っている情報と相違なし、映像は FIBA が展開しているもの）

映像を見て、IOT の観点からディスカッション。

IOT については、主に「Distance & stationary」「Referee the defense」「Active mindset」「45 and open angle」「stay with the play until it is over」の観点から諸問題解決に向けて話し合いました。

10月31日

⑧映像研修

初日の体育館で IOT 研修を行った復習の意味合いが強い映像研修でした。ディスカッションでは「L のロータイミングがあるか否か」に終始した感がありますが、「L が CD を正確に移動しているか？」「C がベーシックポジションにいない」「T と C のチェックイン・チェックアウト」がうまく機能していない映像でしたので、話す観点はいっぱいありました。

## 審判技術・判定基準について

参加している審判員によって持っている情報量や理解度が大きく違うことを感じます。FIBA の各種大会や、各国のトップリーグを担当しているレフリーはそれぞれの意識の高さもあって、多くのものを身につけています。その中で JBA が持っている情報や実践しているメカニクスは、ASIA ではかなりのアドバンテージを持っていると感じます（おそらく世界でもアドバンテージが取れていると思います。JBA 審判担当の上田氏の存在が大きいです。）

前回のドイツ報告書でも書きましたが、基本的にメカが安定しているレフリーは判定も安定していることがわかります。

今大会で感じたこと＝判定がうまくいかないメカニクス

C : Run C to C や C ベーシックポジションの意識が希薄なために、ペイント内に目がいていない結果、大きなインパクトに目がいていない。

L : セットアップ→CD（クローズダウン）→ローテーション→フィニッシュは理解している審判は多いが、「ミラーザボール」「ノーワーキングエリア」「45 ディグリー」「プライマリ（含クロスコール）」と言った言葉が具現化できていないレフリーもいて、結果良い判定に結びついていないと感じます。

T : T のレベルのアジャスト（＝3 or 2、レフリーディフェンス、ペイント内への参加）の意識よりも「ビッグピクチャー」に縛られて T がオートマチカルに高く、判定に結びつかない。

ただ、JBA レフリーが持っているアドバンテージの部分を誇示するだけでは、大会審判団のプラスにならないと思います。プレゲームやポストゲーム、諸々のミーティングで相手を尊重する中、クルーが気持ち良く仕事をするために何を伝え共有するかが大事だと思うからです。これは国内の審判活動でもそうですが、三人が協力していいゲームに導くためにそれぞれが何をすべきかを模索してコートに立つ気持ちが必要だと思います。その点でいうと、英語を含めて普段のコミュニケーションや自立ち振る舞い、オフコート時の存在感なども「自分らしさ」を理解してもらえよう努力を継続したいと思います。

## 全体の感想、提言、他国の審判員から学んだこと、覚えた外国語など

各国のトップリーグを担当しているレフリーと情報交換できたことはとても有意義でした。その中でも日本（Bリーグや WJBL）で活動する上で、環境が充実していることにありがたさを感じます。このような機会をいただき、関係各位に感謝申し上げます。

写真



初日レクチャー終了後



フィットネステスト



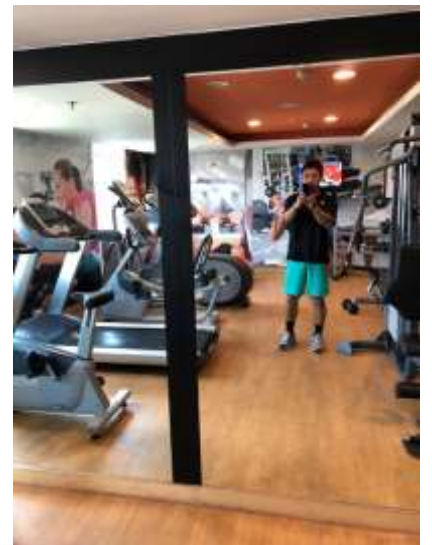
初日のクルー、ポストカンファレンス



日本代表、オープニング



アネージャ SV と



ホテル内のジム